

2020年度人間文化学部人間文化学科 自己点検評価書

基準1.

領域： 使命・目的、教育目的

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	グローバル化時代、人口減少社会(少子高齢化)、経済成長の終焉という、先の見通せない現在の世界において、文化に関する幅広い知識と自分で根源的に考え、表現し、行動することのできる生き抜く力と人生の目標を持ち、様々な分野で活躍できる教養人を養成することを学科の目標とする。
	その実現に向け、中長期的には、現体制を維持しながら、学科の学びの魅力(趣味から学へ:好きな事を研究できる・楽しさ・重要性)を、充実した資格取得支援や学科行事とともに、広く高校生や社会にアピールしていく方法を確立する。

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	人間文化学科の理念・目的は、人文学の普遍的な教養を身に付け、グローバル化時代を生き抜く力を備え、感動あふれる人生を築いていくための人間形成を目標として明確に設定されており、かつ建学の理念「人間性を尊重し調和的な人格陶冶を目指す全人教育」および建学の目的のひとつ「地域社会の発展への貢献」に、最も明快かつ確実に沿ったものである。2016年度から、より現代に沿い、学生確保につながるよう変更した。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
	現状説明
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
	現状説明
年度目標	現状を維持
年度報告	2020年度も定員充足予定(3/18現在)で、4年連続定員充足となった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①入学手続者表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	学科会議において、使命・目的および教育目的について協議し、教職員の理解と支持は得られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。

現状説明	大学要覧、学生便覧、学科ホームページ、学科紹介チラシなどを通じて学内外に学科の教育理念・目的を公表し、有効に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学要覧 ②学生便覧 ③学長室ブログ ④学科HP ⑤学科紹介チラシ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	教職課程再認定認可を受け、学科の方向性を決定するとともに、中長期計画に反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②教職課程認定通知
次年度の課題と改善の方策	特になし。
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	学科会議において、教育理念・目的が大学全体および学部の教育理念・目的に適合しているか否か定期的に検証し、三つのポリシーに反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	教職課程再認定の認可を受けたが、英語、国語ともに大学教育センターの教員の参加、援助がなければ教員不足となる状態は続いている。
年度目標	学科教員の増員か、大学教育センターの確実な協力を要請し続ける。
年度報告	大学教育センターの確実な協力は得たが、学科教員の増員はならなかった。
達成度	B
改善課題	教職課程に必要な教員の確保に向けた要請を続ける。
根拠資料	①福山大学教育研究組織表
次年度の課題と改善の方策	引き続き、学科教員の増員と、大学教育センターの確実な協力を要請し続ける。

2020年度

基準2.

領域： 学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	学部の入試広報戦略に従い、学生募集に関する行動計画を策定する。学生の受け入れ状況改善のため、学科の魅力をわかりやすくアピールできるよう、オープンキャンパスのさらなる工夫、学科行事や研究教育活動のホームページ（「学長ブログによる広報作戦」）による公表等、広報のあり方を検討し、入学定員充足へ向け努力する。学生の支援についても、キャリア形成に関しては外国語検定を軸に資格取得支援を行い、インターンシップにも参加させ、就職活動についても、学生の状況をふまえて適切な支援を就職委員やゼミ担任を通じて行っていく。
-------	---

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	2-1. 学生の受け入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	学科のアドミッション・ポリシーは学科の教育目的を踏まえたうえで、大学や学部の教育目的とも矛盾しないよう策定されており、2017年度には学科会議にて更に改訂作業を行い、その結果をホームページや大学要覧等を通じて、学内外に向けて適切に周知を行っている。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	学科会議においてアドミッション・ポリシーについて更なる改訂作業を行いつつ、ポリシーに沿った学生をAO入試や推薦入試などで受け入れており、年毎に受入数も改善し、2018年度以降は、入学手続者は定員を大きく超えるまでに至っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①入学手続者表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	2015年度外部評価の指摘を受け、各学科の強みを伸ばして広報することで2018年度入学者から定員充足を続けている。入学時に行う入学者アンケートで増減の分析を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持にとどまらず、入学者は定員を超えるまで増加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①入学手続者表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	2015年度には52%だった入学定員充足率が、2016年度には76%、2017年度には90%、2018年度は106%、2019年度は120%、2020年度は100%にまで上昇し続けており、適切な学生受入数を維持できている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した上で、さらに入学者は増加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①入学手続者表
次年度の課題と改善の方策	引き続き、定員充足率の向上に努める。

2020年度	人間文化学部 人間文化学科
中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	各教員のオフィスアワーをHP等で公開し、学習上の相談、資格取得の支援、生活上の支援を行っている。資格取得や進路に関しては、各相談内容ごとに担当教員を配置し学生が支援を受けやすい体制を整えており、それらをホームページで社会に公表し周知している。また教員間の連携体制も機能しており、何らかの問題が生じた場合にも対応できる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	現在のところ、TAなどの必要性はさほどなく、今後もとくに必要になるとは考えていない
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教育研究組織表
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	入学時よりオリエンテーションや教養ゼミにて進路を意識させ、進路に応じた担当教員を配置して指導・ガイダンスを行っており、就職課が開催する就職ガイダンスにも必修のゼミの時間を利用して全員出席させるなど、キャリア形成に向けての支援体制を整えている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②学科別進路状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路情報については就職委員やゼミ担任を通じて学科会議にて随時共有しており、適宜収集した情報を検証、分析している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科別進路状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	オフィスアワーや授業外の時間を利用して外国語検定試験合格に向けて資格取得を支援している。インターンシップ関連でも適切な支援体制を整備している。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍中でも現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	就職課、就職委員と担任、学科長が互いに連携しながら就職指導を適切に行っており、場合によっては保証人に担任が連絡を取ることで就職活動の支援に努め、内定率の向上に積極的に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科別進路状況表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度	人間文化学部 人間文化学科
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	学科独自の経済的支援の実施は行っていないが、学生は大学独自の奨学金制度、日本学生支援機構や地方自治体、財団・企業による奨学金制度を利用している。新年度のガイダンス時に奨学金制度について周知することで、希望する学生が受給できるようにしている。成績等条件のある奨学金については、該当する学生に成績や履修状況を伝え、適宜指導を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②入試のしおり
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	全学で取り組んでいるハラスメント防止ガイドラインに沿って対応している。掲示板での告知や年度初めのオリエンテーションでも学生に案内している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学科掲示板
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	中国・台湾・ブルガリアへ留学した学科学生の体験を聞く機会や、留学生との交流の機会も多い。留学体験については「学長室ブログ」やオープンキャンパスを通じて対外的に発信する。1年後期から2年前期にかけての授業「文化企画実習」によって、学生主体のイベント「人文フェスタ」を企画運営することで、学外での活動も積極的に行ってている。なお今年度は学科創設20周年の冊子を作製する企画を進めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②学科HP
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	研究室、教室、事務室、食堂や売店など主要な設備が1号館に集中した便利な立地であり、快適に学生生活が送れる環境である。また、学科会議において学科学生の学修を支援する環境の整備についての方針をきめており、適切である。2015年度に整備された人文学生研究室は学生に好評であり、学びの場として有効に活用されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①1号館地図
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	学生には、学内施設の積極的な活用を勧めており、学科では図書館のラーニング・コモンズを使用した授業も行っている。また図書館でのボランティアの活動やイベントに関する情報を周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①青木教授のシラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	校舎については学科の占有ではないので、全学的な取り組みにゆだねているが、特に必要な場合には学科として予算請求を行い、学長及び法人ヒアリングの判断を仰ぐことしている。
年度目標	全学のバリアフリー化を要求していく。
年度報告	全学のバリアフリー化を要求し続けた。

達成度	B
改善課題	全学のバリアフリー化を要求し続けたが、実現にはいたっていない。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	今後も、全学のバリアフリー化を要求し続けていく。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	校舎については学科の占有ではないので、全学的な取り組みにゆだねているが、特に必要な場合には学科として予算請求を行い、学長及び法人ヒアリングの判断を仰ぐことにしている。
年度目標	教室内のプロジェクターや映像機器の故障については、可及的速やかに修理するよう依頼を続ける。また一部の教室における床の汚損についても張替えを求めるなど、教室環境の向上に努める。
年度報告	教室内の機器、あるいは教室内の汚損をめぐる問題については教務課等に報告し、修理や改善の依頼を続けている。
達成度	B
改善課題	修理や改善の依頼を続けていく。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	今後も、教室内の設備等の修理や改善の依頼を続けていくことが必要。
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	学科内の研究室等については整理整頓を行うとともに、電気器具などに起因する火災には注意するよう学生にも呼びかけている。
年度目標	全学で整備点検を行うよう、要求を続けて行く。
年度報告	全学で整備点検を行うよう要求した。
達成度	B
改善課題	全学で整備点検を行なうよう要求したが、十分に行われてはいない。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	今後も、全学で整備点検を行うよう要求し続けて行く。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	学科内では該当する劇物・危険物を保管していないが、全学生に配布する安全管理に関するマニュアルを用いて、学生に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学安全衛生管理の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学生に配布される安全管理に関するマニュアルを用いて、学生に周知している。また、2017年10月27日以降毎年行われる避難訓練への参加を呼びかけ、多くの学科学生が参加するなど、安全に関する意識の向上を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全管理に関するマニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2020年度	人間文化学部 人間文化学科
中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	オフィスアワーや放課後の時間を利用して、補習や外国語検定試験に向けての学習支援を行っており、検定の合格者などを通じて検証している。成果の検証は学科会議によって行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①教員オフィスアワー表 ②ゼミシラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	例年、春と秋の2回実施される健康診断を受診するよう、担任や学生委員を通じて指導している。また、何か心身の問題がありそうな場合には早めに保健管理センターに行くよう指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教員オフィスアワー表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学修環境について学生からの要望があった場合には、学科として予算請求を行い、学長及び法人ヒアリングの判断を仰いでいる。2015年度には、学科学生が自由に使用できる研究室が整備されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教員オフィスアワー表 ②ゼミシラバス
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

基準3.**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	文化に関する幅広く普遍的な知識の修得とリテラシー能力を含むグローバル時代を生き抜く力の養成という教育目標を達成すべく、学科のディプロマポリシーもそれに相応したものを設定し、このポリシーに沿って教育課程を編成していく。教職課程については再課程認定に際し、「英語」(中・高)を申請しないこととして、「国語」「地理・歴史」に重点を置く。なお、福山大学研究プランディング事業に関しては、学部レベルでの「鞆の浦学」の構築に向けて教育内容を検討する。
-------	---

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーはHP、単位数に関しては学生便覧に明記、Zelkova上でも取得単位は把握可能である。卒業論文については、人間文化学部規則第6条・第7条に大まかに規定しているのみであるが、成績判定と口頭試験の判定は学科策定のルーブリックをもとに主査と副査の合議で実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。

現状説明	大学教育センターの指導の下に学科会議と学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は各教員で実施している。進級基準は学生便覧に記載があり、進級に関しては、全学の方針に基づき、総単位数と進級要件必修科目で学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。各学年で望ましい単位数が設けてあり、学生便覧により学内外へ周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① 2020年度学生便覧 (進級・卒業に必要な年次別累積単位数) ② 2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。

2020年度 人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。学内外には学生便覧、大学案内、HPで公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	2016年度、大学教育センター主導のもとに全学で3ポリシーの見直しを行い、学科でも整合性を含めて改訂し、評議会で承認している。したがって、両ポリシー間に一貫性がある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。また、科目ナンバー制も導入しより体系的に編成した。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度学生便覧 ②カリキュラムマップ
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	本学の教育目標を具現化する構成になっていると考えられる。毎年の学科のカリキュラムを検討する際に合わせて教養教育の見直しも行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	ICT教育、アクティブラーニングの導入に関し全学及び学部FDを参考に実施している。インターネットにも接続し、iPadを使える最新の設備となったLL教室を語学、ゼミなどの講義で使用し、Cerezoも適時利用しつつ新たな授業形態の導入を図っている。またeラーニング教材の利用を学生に促している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	卒業判定に関しては、ディプロマ・ポリシーに基づくルーブリック評価を行って整合性を担保している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①卒業論文のルーブリック評価表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	2019年度の学部FDは、学修成果の評価方法をテーマに掲げており、その意義を学部教員は認識している。また、学修の成果は授業評価アンケートで把握している。学科のアセスメントポリシーも策定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①「学科の学位授与の方針に掲げる資質の修得度アセスメント表」（学生便覧）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	大教センターの授業評価アンケート結果を個々の教員が受け取り、教育の改善に役立てている。また、学科長が学科全体の総括を行い、大学HPに公開している。学生による自己評価はおおむねどの授業においても平均以上であり、一定水準以上の教育効果は挙げている。評価指標や結果を学科教員内で情報共有し、学科会議で検証し、教育改善につなげているが、より効果的な検証方法を検討する必要がある。
年度目標	各種アンケート結果を教育改善につなげるための検証方法を検討する。
年度報告	検証方法について検討した。
達成度	A
改善課題	継続的な検討が必要。
根拠資料	①学科会議議事録 ②「2020年度授業評価アンケート結果に対する報告書」
次年度の課題と改善の方策	継続的な検討が必要。

基準4.

領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	学科会議を中心に学科内のマネジメントを実施している。総合大学としての福山大学の一翼を担う人文系の学科として、将来にわたりその役割を果たせるよう、それにふさわしい人員の配置に努力する。資格に重点を置いた教育の質保証をめざし、学科の定員充足に努める。また、設置基準上の人員を確保した上で、各分野(カリキュラム上)において過不足のない教員配置と、教員免許などの資格に重点を置いた教育が展開できるような教員の配置を維持する。
	人間文化学部 人間文化学科

2020年度	人間文化学部 人間文化学科
中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	人間文化学科の教育は、学長ガバナンスの下に、学科長が開催する学科会議で審議・決定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① 学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	人間文化学科では、毎年教育・運営に必要な仕事について、全教員で役割分担できるよう学科会議で審議・決定している。また、必要性があるときには将来構想委員会で審議して対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① 全学委員表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	各教員に全学委員を職位などに基づき配置するとともに、学部内の委員(たとえば将来構想委員会、学部自己点検評価委員会など)についても教員を配置し、機能性を高めています。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① 全学委員表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度	人間文化学部 人間文化学科
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	全学の教員人事手続きに則り、教育目的及び教育課程に即した教員を選考して教授会、評議会で承認を得ている。教員の構成に関しては、年齢、性別ともに運営と継続性を最低限担保できる陣容になっているが、カリキュラム上、日本および欧米の言語・文化・歴史が中心の教員配置となっているので、アジア系の文化・歴史分野の充実を図りたい。職階については設置基準を満たすように昇任を促進するように配慮して指導している。
年度目標	カリキュラムの改善のため、アジア系の文化・歴史分野の充実を図るための採用人事を目指したい。
年度報告	アジア系の文化・歴史分野の充実を図るための採用人事を行い、教員1名を採用した。准教授2名の教授昇任は見送られた。

達成度	A
改善課題	准教授2名の早期の教授昇任を促進する。
根拠資料	①教員先行委員会審査結果報告書
次年度の課題と改善の方策	70歳教授の任期延長または後任人事、および准教授2名の早期の教授昇任を促進するための指導の継続。
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	評議会で大学設置基準と現在の配置の表が配付され全学的に確認している。
年度目標	教員免許の関係上、英語系（2018年度入学生まで）が1名、国語系が2名のみでは、大学教育センターの教員の協力なくしては教員数の確保は困難であることを各方面に周知させる。
年度報告	現状の教員配置では質の高い教員免許取得の保証の困難性の理解を得る努力を行った。
達成度	B
改善課題	国語系教員の増員
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	教員免許の関係上、国語系が2名のみでは、大学教育センターの教員の協力なくしては教員数の確保は困難であるとの理解を得る努力を継続する。
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	大学教育センターが実施するFD研修会や、学部FD研修会に全教員が参加している。また学科会議において、教育成果の結果を議論している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関する教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全学及び学部で開催されるFD・SD研修への参加を構成員に推奨しており、毎回、ほぼ全員が出席している。就職支援、学生相談、学生募集においては関連部局職員と連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	インターネットやiPadの利用が可能となったLL教室を語学、ゼミなどの講義で使用し、Cerezoも適時利用しつつ新たな授業形態の導入を図っている。またeラーニング教材の利用を学生に促している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科シラバス
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	大学の規定により職位・研究活動の実績に応じて個人研究費が支給されているが、学科の特性上文献を多用するため、図書費などを考慮すると十分とはいえない。研究室は1人1室確保されている。研究時間は週に1日の研修日が充てられているが委員会や会議等で必ずしも確保できていない。
年度目標	職務の効率化を図り研究時間の確保を目指す。

年度報告	職務の効率化を図り研究時間の確保ができたとは言えない。
達成度	B
改善課題	職務の効率化を図り研究時間の確保を目指す。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	引き続き、職務の効率化を図り研究時間の確保を目指す。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	学術研究倫理審査委員会と小委員会であるヒト倫理審査委員会及びそれらの規程がある。そして、2016年度、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施した。2017年度からは、新任教職員、新入生にガイダンスで実施する。科研費の運用に関し、コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項を定め実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	過去5年間の研究実績に基づく新制を個人事に実施、学部長と学長が個人研究費と学会旅費の査定を行い、規定に基づき配分している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①個人研究費使用状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	2015年2月に改訂された「福山大学『研究費ガイドブック』」をもとにコンプライアンス研修会が開催され、周知がはかられた。その後もコンプライアンス推進責任者である学部長が毎年1回研修を実施している。なお、審査機関として「不正防止計画推進室」がある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学『研究費ガイドブック』
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

基準6. 内部質保証

領域:

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	人間文化学部自己点検評価委員会の指導のもと、学科としても主体的に活動を行えるような体制を構築する。人間文化学科は収容定員・入学定員が大きく落ち込んでいたことから、教育研究活動や学生支援活動以外に学生募集に関してのPDCAサイクルを重視する必要があった。しかし近年は教員一同の努力により、改善の兆しがある。今後も将来構想委員会、学科長会議での学生募集に繋がる魅力的な教育・研究・社会貢献活動の推進を受け、学科としても入学定員充足率の向上に努める。また、2015年度の外部評価委員の指摘では、学生受け入れに大きな問題はあるが、その問題を解決するために、教育の手厚さ、新たな国際交流、そして、地元から評価の高い社会貢献をより進め、戦略的に情報発信するように指導があった。学科でもこのことを確認して、全教員が団結して教育研究の質を向上させることを目指す。2020年度には、教職課程再認定等、教育充実に向けて、カリキュラムの整備、構成員の補充の予定を立てている。
-------	--

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	福山大学自己点検評価規程、人間文化学部自己点検評価委員会細則に基づき、大学全体の自己点検・評価のスケジュールに合わせて学科の自己点検・評価を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度 福山大学諸委員会構成員名簿 ②人間文化学部自己点検評価委員会細則 ③自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	現状を維持
2020年度	人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	学部において、全学のシステムに合わせて学部自己点検評価委員会、外部評価委員会が設置された。2014年度の自己点検評価から自己点検評価委員会が稼働している。学科としては、学部の方針に従い、学科会議で情報を共有している。2015年度に福山大学自己点検評価規程に基づき、学部に外部評価委員会を設置して評価を受けた。結果をHP公開した。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。また、学科の自己評価点検については分業体制とすることを会議にて決定した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①認証評価報告書 ②人間文化学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	特になし。
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	2018年度に設置された本学のIR室における調査資料およびデータに加え、学部学科独自においても、データの収集（および分析）を行っている。また、教育活動に関しては、授業評価アンケートや卒業生向けアンケート、共通教育関係のアンケート等を大学教育センターの指示のもので実施し、授業評価アンケートについては各教員が分析し、授業内容改善を行っている。
年度目標	全学の方針にしたがい、IRを活用するほか、学部学科独自においてもより身近な学生を対象とするデータの収集・分析を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①IRニュース第3号、第4号、第5号
次年度の課題と改善の方策	特になし。
2020年度	人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み（システム）をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	学部として、2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。昨年度は、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討した。学科としても、学部の方針に従い、学科長が各教員と面談する中で、また学科会議で議論する中で改善に努めている。2017年度における学部自己点検評価委員会で自己点検評価について確認して以降、それらの基準等を自己点検に反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。また学科の受験者数と入学者数の経年データを作成し、入学者アンケートとも紐付けした分析を進め、より強力な学生募集の戦略を立てることとした。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和2年度福山大学入学手続状況表 ②「人間文化学科学生募集状況」（人間文化学科共有 SharePoint 内に格納）
次年度の課題と改善の方策	定期的なデータ分析の継続。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	全学FD・SD研修で「科研費制度等に関する説明会」が実施された。また、教育研究に関わる大学のルールはもとより、社会人としての常識とモラルを遵守するよう学部教授会・学科会議で学部長・学科長から要請している。学科会議においても意識の徹底、検証を行っている。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①科研費制度等に関する説明会（2020年3月2日実施）
次年度の課題と改善の方策	特になし。

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中長期計画	これまでの「鞆の浦学の構築」を中心とするブランディング戦略は、「備後圏域経済・文化研究センター」の一活動となる。備後圏域の北部から南部の鞆の浦までの広い範囲が研究対象となる。人間文化学科も、学科内の教育力を活用して同センターの活動に積極的に協力していく。
-------	---

2020年度

人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	「備後圏域経済・文化研究センター」の活動に対する体制を整備するとともに、福山大学ブランディング戦略を学科会議で報告して各教員の共通理解を図ることに着手した。また、学生への周知については、担当教員を中心に具体的な方策を検討し、学生への浸透を図ることに着手した。
年度目標	教員の共通理解を図るとともに、学生への周知を具体的に進めて行く。
年度報告	担当教員を中心に具体的な方策を検討し、学生への浸透を図ることに着手した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②シラバス ③学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、学科の複数教員を中心に、2020年度から本格的に活動を展開する「備後圏域経済・文化研究センター」の活動に協力していく。
年度目標	「備後圏域経済・文化研究センター」の取り組みに協力していく。
年度報告	学科の複数教員を中心に、「備後圏域経済・文化研究センター」を構想し、2020年度から本格的に活動を展開することとなった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①備後圏域経済・文化研究センター規定、同細則 ②学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、協定校との交流を深めてグローバルな人材育成に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	ブルガリアや中国からの交換留学生5名を受け入れ、無事帰国させることができた。コロナ禍の影響で、在学生を留学させることはできなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ「交換留学生から見た福山大学」
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献活動を継続発展とともに、広島県や福山市を中心とする備後地域の各市町との連携事業に積極的に教員と学生が協力している。これらの成果は、外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	文化フォーラム、人文フェスタを開催することを目指したが、コロナ禍の影響で現状を維持することはできなかった。人文フェスタに代り、人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」を学生と教員の協働で作成した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「文化フォーラム」や「人文フェスタ」などを企画・実施して、学外での活動を強く奨励している。これらの成果は毎年地元の企業に就職する学生の多いことで検証の一部としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	積極的に職業を意識したイベントに参加させ、学科会議でその成果を検討した。また、学科のカリキュラムマップは、建学の理念に基づいて作成されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学科カリキュラムマップ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、広島県や福山市を中心とする備後地域の各市町との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	文化フォーラム、人文フェスタはコロナ禍の影響で自粛したが、教員個人が地元の作家研究や古文書調査研究を行うことで、現状を維持し、学科会議でその結果を検証した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①専任教員の2019年度実績と2020年度実施計画
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「人文フェスタ」などを企画・実施して学外での活動を強く奨励している。これらの成果は社会貢献部門で学長賞を受賞する学生や高い就職率で検証の一部としている。また、学生同士が支え合う「学生サポーター制度」を立ち上げ、紐帯性を高める教育に繋げている。
年度目標	現状を維持
年度報告	学生はコロナ禍の影響で人文フェスタの企画運営はできなかったが、人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」の作成にかかわるなど、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山プランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させが必要です。プランディング戦略のブラッシュアップにどのように取組んでいますか。(2019年度以後に実施する新しい点検項目です)
現状説明	各教員が専門分野内で、プランディング戦略に貢献できる研究内容や社会貢献活動を学科会議等において具体的に検討している。

年度目標	現状を維持
年度報告	各教員が専門分野内で、ブランディング戦略をどのように進化させることができるのか学 科会議で検討し、全員が備後圏域経済・文化研究センターの研究部門委員として協力することとした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②備後圏域経済・文化研究センターHP
次年度の課題 と改善の方策	

2020年度 人間文化学部 人間文化学科

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	①当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」に どのように取組んでいますか。
現状説明	人間文化学部研究ブランディング委員会は「瀬戸内の里山・里海文化の歴史解明と保存・ 継承に関する研究」に着手しており、人間文化学科も学科内の教育力を活用して可能な範 囲で協力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	担当教員は、鞆の浦学の構築に向けたプロジェクト研究に参加し、研究協力を続けた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ブランディング事業報告書
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	②福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得して いますか。
現状説明	福山大学研究ブランディング事業予算を申請して予算化するとともに、科研費、行政や民 間の助成金に応募を行う。
年度目標	引き続き、予算要求とともに、科研費等の外部資金獲得を目指す。
年度報告	担当教員は、コロナ禍の影響で福山大学ブランディング事業のための旅費および教材調査 旅費は使えなかったが、研究成果を日本NIE学会でオンライン型で発表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①日本NIE学会第17回東京大会の発表要旨集録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	関連学会、学内での研究会、大学HPで発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	担当教員は、研究の成果として、日本NIE学会第17回大会で「『グローバル・パート ナーシップ』を育成するNIE教材の開発」を発表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①日本NIE学会第17回大会の発表要旨集録
次年度の課題 と改善の方策	